

編輯室の内外

平沼内閣成立以來初めての地方長官會議が開かれ事變處理と百億に餘る空前の大豫算の施行と第七十四帝國議會の協賛を得た重要な諸案件の實施に關し討議する所六日間に涉り平沼首相初め各大臣各其所管事項につき訓示し指示する所があつた、池田大阪府知事に依つて形式訓示は返上すべく外交の強化内政の刷新につき中央地方相共に一段の緊張の要ある旨の全長官の總意が力説せられたることは頗る世の注意をひいた。

木戸内相は關門國道隧道起工式參列後十五年振りの郷里山口に御國入をなし縣民の大歡迎を受けられたが官僚獨善の聲に耳を藉すことなく一心不亂に努力し地方自治の中心力となつて粉骨碎身時局に向つて邁進せよと山口縣廳諸員に訓示せられた、剴切な訓示である。

四月二十二日はイラン國皇太子殿下の御結婚式がゴレストアの宮殿で行れたので天皇陛下には御懇篤なる御祝電を御發送あらせられたとつけ給る、又奉祝の爲我が「そよかぜ」號を始めイギリス、ドイツ、イタリア、トルコ、ポーランド等の飛行機が色とりどりの形で飛行場に銀翼を列べたとの事その壯觀想像するに足る。

米國の各船會社では歐洲の風雲急を告げ

編輯室の内外

一觸即發の氣、地中海に滿ちて居るのでスエズ運河の通過を危険視し遠く喜望峯廻りに航路を變更したと傳へらる氣の早いことではある。

アルバニヤを併合したイタリアは更にアドリア海の支配を確保し着々ダルマチヤ、多島海への進出を企てドイツは着々持たぬ國の權力を北へ東へ伸展するのでバルカンの諸小國は震ひあがつてギリシヤ、ルーマニヤ、ユーゴスラヴィヤ、トルコの四小國はバルカンの一切の國境安全保護の爲バルカン協商を締結したとの事である、獨伊、防共協定の力は此の協商の上に如何なる制壓を加ふるのか刮目すべき問題である

東京市内に煙草の火からセルロイド會社其の他の工場が爆燃し多數の死傷者を出したる慘害に鑑み厚生省では工場災害防止對策の強調を講ずることゝなつた。喉元すくれば暑さを忘ることゝなれど警告すべし

過般の地方官異動で十萬圓餘の交流異動經費が支拂はれて平面的任地替の爲汽車の混雑が増されたが、某方面では更に國民生活の實情への立體的交流を切望す、國民の大部分は難關突破の覺悟に緊張しつゝ勇退もなく榮進もないことを爲政家は認識してもらひたいとの苦言を吐くものがある。

馬耳東風とも聽き流されぬことである。

關門の鐵道トンネルも國道トンネルも豆トンネルを開通し得て愈々本工事に着手す

ることゝなつたが千葉縣香取郡神代村地方の日本一の長い用水隧道は一昨十二年の四月に總工費二百二十五萬圓を以て起工したもので幾回の難關を突破し此の程七百圓の坑道を貫通し得たとの事である、徳川幕府時代俵僧鐵牛に依つて干拓せられた干潟十萬石の大耕地は此の大トンネルに依つて大利根の水に潤はさるゝ事となる、之も國策の實現か。

客年十一月創立の日本道路技術協會に於ては愈々機關雜誌「道路」を創刊し時局對策を實現すべく技術の向上と技術綜合に依つて邁進せらるゝ事となつた、吾人は衷心から雜誌の刊行を祝し其の向上發展を祈るものである。庶幾くば戮力以て斯界の發達に貢獻せんことを。(洗)

定價一部 五十圓
一ヶ年分 金六圓

發行所 東京市麴町區霞關一丁目内務省内
社 國 道 路 改 良 會
法人

電話銀座(57)四二七
東京市世田ヶ谷區代田一丁目七八〇番

發行所 小島 效
編輯者

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
常磐印刷所
印刷者 奈良直一